



# 第168号

発行所

社会福祉法人  
西陣会

HP: <http://www.nishijin.org>  
E-Mail: [nishijinkai@nishijin.org](mailto:nishijinkai@nishijin.org)

〒602-8464  
京都市上京区元誓願寺千本東入ル  
TEL (075) 451 - 8971  
FAX (075) 451 - 5700

発行者: 水上 雄一郎  
編集責任: 浅田 将之

郵便振替口座  
01030-5-23086

ホームページでも  
ご覧になれます

当法人への寄付金は、課税控除対象となりますので、その為の受領書が必要な方はお申し出下さい。

## 西陣会の経営理念が示すもの

監事 菅 恒敏

明けましておめでとうございませう。皆様、ご健康のうち新年をお迎えになりましたことと、お慶び申し上げます。一人ひとりに与えられた健康、命を精一杯輝かせて、この年も共に歩んで行きたたく存じます。

今年西陣会は創立五十五年を迎えます。創立当初から同志社大学やキリスト教関係の方々のご尽力により、事業が継承・発展してきた経緯により、キリスト教の精神が経営理念の基盤に置かれ、今もこの姿勢は変わりなく継承されています。二〇一二年度に創立五十周年を迎える際に、基本方針策定委員会が立ち上

げられて、時流に合った経営理念の見直しを踏むべく真摯な議論が行われましたが、結果としてこのような時代であればこそ、なおさら大切な言葉として、聖書の言葉「自分を愛するようにな、あなたの隣人を愛しなさい(隣人愛)」が引き続き経営理念の基盤に置かれることになりました。激しい経済競争のもと、キリスト教主義の学校や施設が、その色合いを薄めていく所が少なからずあることを思うとき、西陣会のこの変わらぬ信念と決断は、大変価値のある、喜ばしいことです。聖書に愛の人と記されるイエスは、馬小屋の飼い葉桶

の中で生まれ、十字架の死に至るまで、その生涯を貧しい人や弱い立場の人・虐げられた人々に捧げ、命をかけて守り愛されました。この私利私欲を捨て、命をかけて人のために尽くすイエスの愛こそが福祉事業の原点になるべきではないかと考えます。さらには、今日の民族・宗教の対立や富の配分格差による貧困・病・争い、そして地球温暖化による自然災害など、世界的な混沌と閉塞状態を打破し、万人に平和と幸せをもたらすためには、力による解決ではなく、お互いを理解し尊重し合う、愛の心(隣人愛)が必要なのではないでしょ



京都やんちゃフェスタ2016での物品販売

うか。このような時代背景のもとに、まことの福祉事業の在り方を目指し、人々の平和と幸せを願う西陣会の経営理念の基盤に、聖書の示す「隣人愛」が据えられていることに、西陣会の行く末に限りない夢と希望を覚えます。聖書の中に「愛の業をなす者

は、地の塩・世の光である」との言葉が記されています。今後、福祉事業に対するニーズが益々高まると予測される時代にあつて、西陣会の働きが「地の塩・世の光」として、多くの人々に愛され信頼され、地域に光り輝く事業所であり続けることを願ひ祈ります。

**桜まつり開催予定**  
2017年4月2日(日)  
船岡山公園野外音楽堂



寄稿

# 「ふくしまを生きる」

社会福祉法人ほっと福祉記念会  
統括 鈴木 康弘



「困っている事はありますか？」東日本大震災後、何度となく聞かれた言葉である。私は当時、障がいがある方々の相談支援や就労支援を通して悩みや困りごとを聴く仕事をしていたはずなのに、自分が「困っている事はありますか？」と聞かれると、上手く表現できず、言葉に詰まった。本日は困っているのに、逆に自分で何とかしないとけないという思いだけが、どんだん独り歩きしていった。そして、その思いはやがて、自分の余裕を奪い、周りにも悪影響を与え、終いには、自分を追い込んでいくという悪循環を作りだしていった。「一人で抱え込

まない」「相談する事が大事」わかつてはいるのに出来ない。人に弱さを見せる事や、人に心の内を話す事がこんなにも難しいとは、震災を経験しなければ、もしかすると気づかないままだったのかもしれない。

震災を経験する事で、多くの事も学んだ。これからの福祉は、地域の中で当たり前に暮らす地域づくりと言いつつ、地域の中で暮らす障がいがある方を支援して、障がいがある方の暮らす地域を支援してなかった自分。被災者という言葉で、皆が同じ一人の住民になった時、復興という言葉の共通言語が生まれ、お互いにお互い

を必要とし、つながっている事が安心を生んでいく。そこには、児童福祉や障害福祉、高齢福祉なんて言葉はいらない。生きることに、ただただ皆が食欲で、必至だった。

私の住む福島県は、浜通り、中通り、会津とともに広域の県で、風土や文化もそれぞれ特徴がある。震災以降、浜通りから多くの方々が県内外に避難し、今なお避難生活を送っている。県外に避難している方々の想い。自分が住んでいた街に帰れず県内の他の地域で暮らしている方々の想い。放射能の影響で、帰町する

かしないかで揺れ動いている方々の想い。時間の経過とともに、想いの温度差が見え隠れし始め、新たな課題が出てきている。この混沌とした状況の中、当法人では、「福島県被災地における障害福祉サービス基盤整備事業」アドバイザー派遣事業事務局を3年前から、いわき市にある社会福祉法人いわき福音協会よりバトンパスを受け受託している。事業の内容は、福島

の障害福祉の現状や課題を福祉圏域毎に整理し、各圏域のアドバイザーが圏域の状況に目配しながら、県内外から沢山の支援を頂き、福島県の未来へ、社会資源を創りだしていく。その調整や裏方的業務を担っていく仕事ではあるが、この事業が歩み続けられるのは、震災直後から、自分事として福島のことを一緒に考え続け、一緒に悩み続けてくれている山田優さんや西陣会さんを始めとする全国の皆様の本心に厚いお力添えのおかげだといつも過言ではない。私はそう思っている。震災をきっかけに多くの人と出会い、一人では乗り越えることができない

乗りの壁を、全国の皆さんの後押しで、少しずつ、少しずつ、乗り越えることができた。感謝の言葉しか思いつかない。私の人生を大きく変えた震災。今もなお沢山の課題が山積みで、時には逃げ出したくなる時もある。でも、大丈夫。私たちは、全国の繋がりに支えられていて、頂いた沢山の勇気を胸に明日からまた一歩。優さん、西陣会の皆さん。全国の皆さん。隣にいてくれてありがとう。ごさいます。福島で福島を愛し、福島を生きます。

気は優しく、力持ち、ソフトな語り口であったかい、そんな第一印象の鈴木康弘さんと出会ってから3年が経ちました。障がいのある人の就労支援や地域生活支援に先駆的な実践をされている福島県で、日々の直接的な支援を通して活用できるネットワークをつくらせたり、制度の柔軟な運用を働きかけたり、時には縁の下で、時には表舞台で、中心となって活躍されている鈴木さんです。広い視野で課題を捉え、いろんな角度から解決策を考えて、紡ぎだされるシャープな意見は刺激的で大変勉強させていただいております。郡山市を拠点に事業展開されているほっと福祉記念会さんでは、様々なアイデア満載で就労支援にも力を入れておられます。住宅街に馴染むおしゃれなカフェ「Sweet hot」の焼チーズカレーは絶品で、心が和むお店「心和（こころ）」のランチはどれもおいしく、その他、宅配弁当屋さん等もされています。

ホームページ  
<http://www.hottokuship.jp>  
西陣会法人本部 浅田 将之

## 地域生活支援ニュース

西陣会居宅サービス係

### 集団活動企画が目指すもの

集団活動企画担当 高田 恵里

西陣会居宅サービス係では、二〇〇九年度からヘルパーを利用したグループでの外出を計画し「集団活動企画」と題して、年に五回程度開催しております。

夏は恒例の湖水浴、十二月にはクリスマス会。その他、スポーツや果物狩り、枚方パーク、関西国際空港ツアーなどに行きました。集団活動企画では、集団でこそ楽しめる活動や、普段の対一の支援では行く機会の少ない長時間の外出先の提案をしております。

私が担当させていただき四年。特に枚方パークの活動が印象に残っています。遊園地がお好きなお利用者も多く、親が連れて行けない、きつかけがないと行けないなどの声があり、多数の参加をいただきました。ほとんどの方がフリーパスを買われ、二十個以上の乗

り物に乗った方もおられました。発作に気を付けながらクルクル回る絶叫系の乗り物に乗られた方、家族以外の慣れない人や知らない場所で大変緊張され、場合によっては長時間動けなくなってしまう方が、仲間と一緒に五十mの高さから猛スピードで落下する超絶叫マシンに二回もチャレンジされることもありました。親御様に報告すると、皆様「すごいー！そんな乗れたんやね」とご利用者の新たな発見をされたようでした。集団活動企画の目的でもある仲間同士の交流と、楽しみながら社会参加し、経験を積んでいただいたことが叶った素敵なお



集団活動企画クリスマス会 (居宅)

活動でした。集団で外出すると、個別支援の時以上に、地域の人々が優しく声をかけて下さったり、思いがけない配慮をいただいたりもします。しかし車いすの方への配慮など、まだまだ不十分だと感じることもあります。障がいのある方の「行きたい」が当たり前前に実現できるよう、集団活動企画では、より地域の人たちへの働きかけも大切にしていきたいです。そのためにご利用者のニーズを知り、一人一人が安心して外出できるように働きかけていきたいと思っています。

集団活動企画が、仲間と過ごす一生の思い出となります。心より願っております。

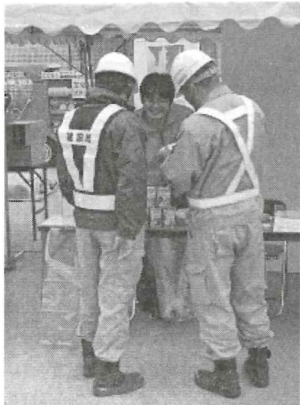
### デイセンターふらっと

### 防災啓発活動

副所長 本林 直人

二年前より、日本非常食推進機構からの依頼で箱詰め作業をされている白い小箱(非常時の簡易トイレや食料・水などが入っています)ですが、このたび、京都市の行政区毎に行っている防災訓練時に啓発活動を行うので、手伝ってもらえないかと依頼がありました。すべての行政区には行けていませんが、西京・東山・左京・上京にご利用者さん数名と職員一名で行かせてもらいました。

行政区の防災訓練は小学校などを利用してされており、白い小箱は、非常ディスプレイなどと一緒に出展展示ブースで出させてもらいました。チラシ配りや、箱に入れている缶詰のパンの試食などをしていきます。利用者さん達は、自分達が詰めていることや、箱の中身などを説明する人や、試食のパンの用意をしてくれる方など、それぞれに啓発活動のお手伝いをしてもらっていました。話を聞いてくださった方達の多くは興味をもたれ、町内会単位での購入を検討していた方も



白い小箱啓発活動 (デイセンターふらっと)

おられました。京都での注文があれば、箱詰め作業は当方にお願いが来ると思っているので、利用者さんやのやる気もアップし、納品時などには、新たな出会いも生まれていくことを楽しみにしています。ただ、今回の啓発活動をしてい中で改めて、デイセンターふらっとや西陣会品を用意しておく必要があるなど感じています。費用面や保管場所などの課題があります。よい方法を考えて動いていこうと思っております。もうひとつデイセンターふらっとでは避難訓練や防災センターでの体験をおこなっています。地域の防災訓練に参加していくことも大切だと感じています。最後にになりましたが、本年もどうぞ宜しくお願いします。



西陣会ホームとなり

### グループホームにおける スプリングクラー設置について

所長 宮崎 一 弥

二〇一三年二月に発生した長崎県の死者、負傷者を伴った認知症高齢者グループホームの火災を受けて、消防法施行令の改正がありました。二〇一五年四月からスプリングクラー設備の設置に関する基準の見直しが行なわれ、障がいのある方のグループホームなどの施設等については、従来の面積要件が撤廃され、原則として、スプリングクラー設備の設置が義務付けられることになりました。

グループホームとは、家庭的な雰囲気大切にしながら、安心・安全な暮らしをするための「暮らしの場」であり、地域において近隣の住民の皆さんと共に生きるという法の理念に基づき大切な役割を果たしています。消防法施行令では「社会福祉施設」として取り扱われますが、その入居者数や設備構造等は一般的な住宅と変わらない小規模ホームが多くを占めています。賃貸住宅で消防設備を設置する場合には、所有者の承諾が必要となりますが、

その承諾が得られなければ入居を断念、または転居や退去を余儀なくされる等の問題があります。

グループホームにおけるスプリングクラー設置に関しては、まだまだ多くの課題がありますが、ご利用者の安心・安全の確保を目指すために、西陣会ホームとなりにおきまして、スプリングクラー設置に向けて二〇一五年度より補助金申請の準備をしております。結果、二〇一六年九月に京都市障害福祉施設スプリングクラー設備整備補助金の交付が確定いたしました。そして、二〇一七年二月には、設備工事の着工予定であります。

誰もが当たり前の生活を目指していく福祉施策と、まだまだグループホームを「社会福祉施設」として取り扱う消防法。両者の動向を今後も注意深く見ていきながら、私たちはその狭間にいるご利用者の安全と、その地域生活を守っていききたいと思っております。

MY MOTHERS

### 「スポーツで広がる地域の輪」

藤原 啓 太

毎年秋にはMY MOTHERSの一大イベント「嘉楽区民運動会」と「胸ドキドキ出会の瞬間」キックベース大会が開催されます。嘉楽区民運動会は、嘉楽学区の各町内会でチームを組んで出場される運動会で、私たちは「京都市民福祉センターチーム」として日頃西陣会に関わるご利用者、児童館に遊びに来てくれる子どもたち、ボランティア、職員で毎年出場させていただいています。今年は台風の関係で一日延期となり、十月十日(月)祝日開催となりました。延期になったことで、デイセンターふらっとの開所日と重なり、ふらっとを利用されている方も散歩途中にふらっと立ち寄り、競技に出場することができました。

今年の私たちのチームでは、一競技終わる度に頑張った仲間へ「お疲れ様」の一声があり、次の競技に向かう仲間に「頑張れ」の一声が掛け合える姿が自然と見られ、競技においてもチームワークが素晴らしい「京都市民福祉セ

ンターチーム」でした。運動会には色々な競技がありどれもとても楽しそうでしたが、その中でも一番記憶に残っている競技が「大玉転がし」です。人間の体より大きな玉をみんなで力を合わせて転がし、次のチームにバトンパスした後のみなさんの表情はとても清々しく印象的でした。地域の方々からたくさん

の応援をいただき私達の事を知ってくださっていることを感じ、このような機会を続けることで地域の輪が広がっていくのだからと改めて思いました。

キックベース大会は、嘉楽中学校の生徒と日頃西陣会を利用してくださっている利用者、児童が一緒に



体育祭～大玉転がし～ (MYM)

キックベースを通して交流する機会です。体育館の天井に当たるような力強い当たりや、華麗なフライボールのキャッチなど利用者の普段見られない姿を見せていただき、中学生も一緒にチームメイトとして一喜一憂できたことはイベントの目的を達成できた瞬間でもありました。MY MOTHERSでは、今後も様々なイベントに参加させていただき、地域の方々の繋がりを広めながら、障がいのある方もない方も共に過ごしやすい地域作りに少しでも協力できればいいなと思います。

支援センター「きりりんく」

### 重度障害者意思伝達装置説明会について

相談員 吉田 耕 平

皆さんは、文字が書けなくなったり、言葉が喋れなくなったりしたらどうしますか？

私たちは、書く、話すといったコミュニケーションを通して、自分の意思を周囲に伝えていきます。もし、書く、話すといったことができなくなり、うまく意思を伝えられなくなったとしたら、暮らしの中で満足感を得ることは難しくなるのではないのでしょうか。

私たちの社会には、生まれつきの障害、事故、病気でといった理由で、身体が動きづらかったり、言葉が出ずらかったりする人がいます。その人らしい生活の実現のためには、その人自身の希望を汲み取ることが欠かせないため、希望を述べた、生活を支えることも大切な役割であるように感じます。

さらリンクでは、そういった人たちがその支援者に対して、毎年、重度障害者意思伝達装置説明会という研修を主催しています。重度障害者意思伝達装置とは、書く、話すといった形での意思表示が難しい人が利用する、補助代替コミュニケーションの一つです。文字盤

といったローテク機器、タブレット端末やパソコンといったハイテク機器が存在しますが、後者は非常に高額であるため、目にした説明を聞いたりする機会が多くなっています。そういった背景から、説明会では機器を販売している企業に協力いただき、実際に参加者が操作できる時間を取れることを大切にしています。機器の中には、モニターへの視線を感じて文字を入力力できるような最新の装置もあり、私自身も開催の度に沢山の驚きと学びを得ています。

去る十一月、京都社会福祉会館にて、今年度最初の説明会を行いました。十二月には福知山での説明会もあり、延べ七十人ほどのご本人、ご家族、医療福祉関係者に参加いただく予定です。今年度からは、基幹支援センターの立場での新たな取り組みとして、圏域の医療機関への出張説明会も行うことになりました。始めたばかりの小さな取り組みではありますが、コミニケーション支援の意義を少しでも増やせるよう、歩みを進めていきたいと考えています。

支援センター「にしじん」

### 「虐待・非行・発達障害・困難をかかえた子どもへの理解と支援」 土井ホームの実践から

相談員 藤原 暢 子

二〇一六年十月二十七日、京都市中部障害者地域自立支援協議会の相談支援専門員研修として、北九州でファミリーホームを営み、他で対応が困難といわれた子ども達を受け入れておられる土井高徳氏をお招きし、現在土井ホームで受け入れておられる子ども達のことや、主で運営されている土井氏・奥様・妹さんがどんな関わりをされているかを聞かせて頂きました。

と支援がないため(困った子ども達ではなく)困っている子ども達なんだということ等をお話して下さいました。

土井ホームでは、虐待を受けた子ども達へ、まずは相手が望むまで体を満たし、その後心を満たす、という関わりをされています。今食べなければ、次いつ食べられるかわからない環境を生きてきた子ども達が、安心して食べていいんだと思えるまで食事を用意し続けること(朝から丼八杯、パン五枚、バナナ三本の量を食べる子が複数……)、他府県に逃げた子どもをいつでも迎えに行くこと、法に触れた子どもを再び受け入れること等、生半可な愛情や信頼では出来ないと感じました。

講演の中で、子ども達の発達を、発達障害や愛着障害、虐待の連鎖や親子の相互性という視点で、皆が当たり前のように赤ちゃんの時に体験した。泣けば親や周囲が応答してくれる。ことから得られる基本的信頼感(自分は価値ある人間と思える)が得られないこと、それが欠けた環境で育つことでの対人不信や自己肯定感が低くなること、虐待がもたらすこと、適切な理解



土井氏研修会の様子 (にしじん)



# 路地裏ステーションニュース

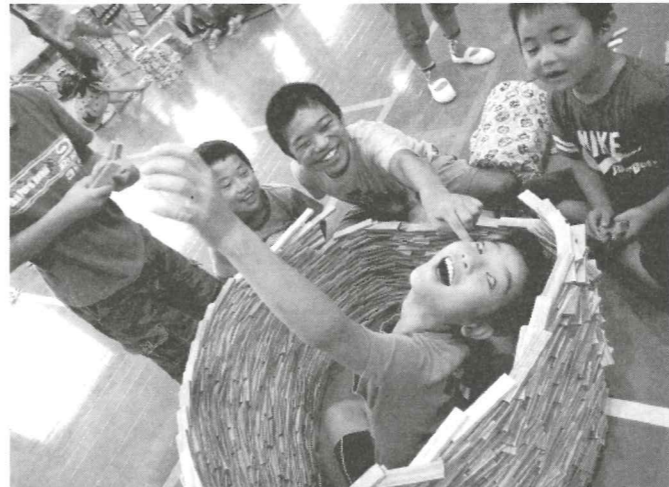
## 西陣児童館

### 「クリスマスの灯り」

館長 中山 あい

毎年十一月も半ば過ぎになると、児童館のサンタ工場はウキウキわくわくしながら悩み始めます。乳幼児さんのお母さんサンタたちは、かわい子どもたちの笑顔のためにクリスマス会の準備をします。職員やボランティアサンタたちは、小学生やピポのメンバーたちと楽しいクリスマス会をつくって行くために、思いめぐらします。学童っ子たちも飾りを作ったり、出し物の練習を始めます。クリスマスの日にはやんちゃなロースに変身し、普段お世話になっている（ご迷惑をおかけしている!?）ご近所の方々が高輪の方々の施設にうかがい、「クリスマスおめでとう!! いつもありがとうございます」の気持ちをお笑顔を元気に一緒に届けます。

クリスマス会では、最後におとなが子どもたちをぐっと囲んでろうそくに灯りをともしていきます。隣の人から自分のろうそくに灯りをともしてもらい、その



遊びこむ! ~カブラワークショップ~ (児童館)

から分けてもらったろうそくの灯りによって照らされ、輝いていくことができるのです。そして、今度はその灯りを別の人に分けてあげます。隣の人に灯りを分けても、自分の灯りが弱くなったり、減ったりすることはありません。明るさやあたかさは増すのです。それは、人と人がお互い同士助け合い、持っているものを分かち合って生き、生かされていく姿と言ってもいいのではないのでしょうか。新しい年、互いの灯りを分かち合い、自分もとなり人も大切に出来る歩みをなしていくことができますよう、心からお祈りします。

# 「変化の先頭に立つ」

副所長 小西 秀和

二〇一七年六月、タイムケア事業「ういず」は開所して十周年を迎えます。十年前の当時は、障がいのある子ども達の居場所と言え、児童館学童クラブ（小学校四年生までが利用可能）が主たる場所でしたが、その他にはありませんでした。そのような中、大きな課題となっていた学童クラブ卒部後の居場所として、障がいのある中高生タイムケア事業が京都市の独自事業として産声をあげました。これまで多くの方に望まれていた事業だけあって、開所当初から非常に多くの方がご利用され、ニーズの高さから開所から五年後の二〇一二年七月には、分室も開所し、現在に至っています。

一方、二〇一二年四月より児童福祉法改正に伴い放課後等デイサービス事業が国施策としてスタートしました。当初京都市内で九事業所だったのが、二〇一六年十一月末現在で百事業所を超えています。また、二〇一三年十月には移動支援事業の制度拡大が図られ、放課後および通学の支援も開始されました。さらに、二〇一五年四月からは子ども・子育て新支援制度の開

## 活動日誌

### 【本部業務・公益事業】

- 10月 2日 理事会
- 10月 10日 嘉楽学区 体育祭
- 10月 14日 施設長研修(講師・深田未来生顧問)
- 10月 17日 社会福祉法人経営者セミナー(浅田・宮崎)
- 10月 17日 月曜集会
- 10月 25日 人材育成検討委員会
- 10月 29日 産業医面接相談会
- 10月 30日 震災支援物品販売(京都・やんちゃフェスタ)
- 10月 30日 震災支援物品販売(京本100円商店街)

### 【11月】

- 11月 1日 相談係座談会
- 11月 6日 福島県アドバイザリ派遣事業(浅田)
- 11月 13日 レクリエーション会議(震災支援物品販売)
- 11月 15日 月曜集会
- 11月 17日 西陣会ステツブアップ研修(人材育成検討委員会)
- 11月 22日 社会福祉法人経営者セミナー(浅田・宮崎)
- 11月 26日 総務委員会
- 11月 28日 産業界面接相談会
- 11月 30日 55周年記念会実行委員会

### 【12月】

- 12月 7日 レクリエーション委員会
- 12月 9日 社会福祉

### 【西陣児童館】

- 10月 1日 支援ステーション事業
- 10月 6日 合同運動会
- 10月 22日 京都府放課後児童支援員認定資格研修(鬼塚)
- 10月 22日 支援ステーション事業
- 10月 29日 京都・やんちゃフェスタ2016に参加
- 11月 23日 上京の子どもまつり(野崎)
- 11月 24日 第一ブロック職員交換派遣研修(松井)

### 【11月】

- 11月 8日 支援ステーション事業
- 11月 14日 「おひさまルーム」合同クリスマス会
- 11月 14日 京都市児童館第一ブロック交流反省会(中山・鬼塚・藤原・松井)
- 11月 18日 児童健全育成推進財団研修(中山)
- 11月 18日 児童健全育成推進財団研修(中山)
- 11月 18日 児童健全育成推進財団研修(中山)
- 11月 18日 児童健全育成推進財団研修(中山)
- 11月 18日 児童健全育成推進財団研修(中山)

### 【12月】

- 12月 4日 永瀬
- 12月 4日 永瀬
- 12月 4日 永瀬
- 12月 4日 永瀬
- 12月 4日 永瀬
- 12月 4日 永瀬
- 12月 4日 永瀬
- 12月 4日 永瀬
- 12月 4日 永瀬
- 12月 4日 永瀬

### 【11月】

- 11月 1日 14日 キヤリアパスチムリーダー研修
- 11月 4日 サイバ管理責任者研修(山本・永瀬)
- 11月 6日 居宅職員会議
- 11月 8日 アセスメント・プランニング研修(岩田)
- 11月 8日 ヘルパー研修会(岩田・尾崎)
- 11月 12日 強度行動障害者研修(基礎研修)(高田)
- 11月 14日 京都府強度行動障害者研修(実践研修)(岡田・藤本)
- 11月 15日 京都府強度行動障害者研修(実践研修)(岡田・藤本)
- 11月 15日 京都府強度行動障害者研修(実践研修)(岡田・藤本)
- 11月 15日 京都府強度行動障害者研修(実践研修)(岡田・藤本)

### 【12月】

- 12月 1日 2日 サイバ管理責任者研修(山本)
- 12月 4日 永瀬
- 12月 4日 永瀬
- 12月 4日 永瀬
- 12月 4日 永瀬
- 12月 4日 永瀬
- 12月 4日 永瀬
- 12月 4日 永瀬
- 12月 4日 永瀬
- 12月 4日 永瀬

### 【10月】

- 10月 2日 居宅職員会議
- 10月 12日 上京ねっと運営委員会(永瀬・高田)
- 10月 16日 集団活動企画「スポー」と銭湯
- 10月 18日 上京区障害児者生活

### 【10月】

- 10月 18日 京都府強度行動障害者研修(高田)
- 10月 18日 京都府強度行動障害者研修(高田)
- 10月 18日 京都府強度行動障害者研修(高田)
- 10月 18日 京都府強度行動障害者研修(高田)
- 10月 18日 京都府強度行動障害者研修(高田)
- 10月 18日 京都府強度行動障害者研修(高田)
- 10月 18日 京都府強度行動障害者研修(高田)
- 10月 18日 京都府強度行動障害者研修(高田)
- 10月 18日 京都府強度行動障害者研修(高田)
- 10月 18日 京都府強度行動障害者研修(高田)

### 【11月】

- 11月 5日 パソコン補助具・重度障害者意思伝達装置説明会
- 11月 7日 地域懇談会開催
- 11月 7日 北部自立支援協議会
- 11月 7日 北部自立支援協議会
- 11月 7日 北部自立支援協議会
- 11月 7日 北部自立支援協議会
- 11月 7日 北部自立支援協議会
- 11月 7日 北部自立支援協議会
- 11月 7日 北部自立支援協議会
- 11月 7日 北部自立支援協議会

### 【12月】

- 12月 15日 福島県アドバイザリ派遣
- 12月 15日 相談支援カフェ
- 12月 15日 相談支援カフェ
- 12月 15日 相談支援カフェ
- 12月 15日 相談支援カフェ
- 12月 15日 相談支援カフェ
- 12月 15日 相談支援カフェ
- 12月 15日 相談支援カフェ
- 12月 15日 相談支援カフェ
- 12月 15日 相談支援カフェ



# 55周年を迎えます！

京都市民福祉センター 館長 浅田 将之

五十五年前、先人達は西陣地域で働く人たちのおかれています。状況に心を寄せ、その地域の環境を少しでも良くしようとキリスト教精神に基づいた活動をはじめられました。いろいろな活動が生まれ、受け継がれ、成長し、集う人の輪を広げながら、出会う人たちが抱える新たな課題に直面するたびに、その課題に向き合ってきました。

弱い立場に追いやられて、悲しみ、不安を抱えている人に寄り添い、生活しづらさを感じている人たちを前にして、周囲の仲間と共に、自分がどのような隣人になるかを考え実践をしてきました。

法人設立四十周年が過ぎ、地域で暮らす障がいのある人の個別ニーズに対するヘルパー事業、日中に安心、安定して活動していただける場をつくりました。その日中活動は、将来の地域生活における「居住」も見据えた取り組みでもありました。

四十五周年の頃には、児童館に来ていた子ども達の成長に合わせて、放課後や長期休暇中に安心して過ごせる活動の場を創りだし、またその働きは京都市全域に新たな

事業として波及することに

もつながっています。五十周年の時に「大きな変革と変わらぬ想い」を再確認しました。

同時期に不思議なご縁があり、西隣の家を購入、改修し、居住の支援を開始して、一層本人の意向に合わせた地域生活支援に取り組みやすいになりました。ニーズの高い短期入所も同時に始め、障がいのある市民の緊急時の一時的な住まい、あるいは自宅以外での宿泊体験の場としても活用されています。生活しづらさを感じておられる方々の負担を軽減しながら、親亡き後にも住み慣れた地域でご自身が望む暮らしを実現していただける環境が少しずつ

整いつつあるといえます。社会福祉の制度が大きく変化し、西陣会でおこなってきた先駆的な各ボランティア活動も一定の役割を果たし、ボランティアが職員となり、活動が事業となり、制度に基づいた福祉サービスとして大きな変革をしてきました。

大きな変革を迎えても、人を、命を、存在を、大切にするといい想いに基づく実践は変わりません。私たち自身が社会の中で

弱い立場に追いやられて、人たちの隣人となり、その人たちと共にお互いを尊重しながら、弱い立場の人を生み出さない社会を創り出していくために、ひとりひとり「熱き想い」「変わらぬ想い」をもって、六十周年、七十周年へとつ

## センター往来

◎10月10日(祝月)嘉楽学区区民体育祭に「市民福祉センター」チーム・西亀屋町「チーム」でご利用者さんボランティアさんと参加させて頂きました。一丸となり、協力しながら競技に参加しました。地域の皆様のご声援、楽しい一日をありがとうございました。

◎10月10日(祝月)小松原北町南部町内会(2016年度、町内会長を担当)衣笠学区区民運動会に参加させて頂き、皆様との交流を深める機会となりました。ありがとうございました。

◎今年も、京都めいぷるワイズメンズクラブからじゃがいも・かぼちゃの販売ご案内をいただきました。皆様にはたくさんご購入のご協力をいただき、誠にありがとうございました。

◎11月26日(土)社会福祉法人世光福祉会新拠点「イマジン」落成式典に浅田

ながる一歩を共に踏み出していきましょう！

京都市民福祉センターの活動には皆様からいただいた寄附金の一部も充たせていただいています。

常務理事が出席しました。向島のベテスタの家とともにも桃山のイマジンは障がい者地域共生拠点として歩み始められました。おめでとございます。◎被災地支援物品販売をさせて頂きました。

10/29 京都やんちゃフェスタ  
10/30 めが！ 千本100円商店街(千本商店街主催イベント)  
11/13 嘉楽わっしょ  
紫野まつり

### 報告

8月26日に天に召された故市田修三様のご遺志金として市田利江様よりご寄付をいただきました。心より感謝申し上げます。すとも天上での平安をお祈りいたします。西館の改修費用(スプリンクラーの設置費用)に充てさせていただきます。

住所変更のある方、当機関誌のご不要な方はFAXにて(075)451-5700迄ご連絡下さい。

### 社会福祉法人 西陣会

- 法人本部
- 京都市民福祉センター
- 地域活動支援センター
- ふらっと
- 地域生活支援事業
- レスパイトサービス
- 〒602-1846 京都市上京区元誓願寺通り千本東入る元四丁目四三〇番地の二
- TEL 〇七五 四五二一八九七
- FAX 〇七五 四五二一五七〇〇

### 西陣児童館

- 京都市障害のある中高生のタイムケア事業 ういず
- TEL 〇七五 四五二一八九七
- FAX 〇七五 四五二一五七〇〇
- 西陣会居宅サービス係
- 〒602-1846 京都市上京区元誓願寺通り千本東入る元四丁目四三〇番地の三
- TEL 〇七五 四五二一三三〇
- FAX 〇七五 四五二一五七〇〇
- デイセンターふらっと
- TEL 〇七五 四五二一三三〇
- FAX 〇七五 四五二一五七〇〇

### 京都市中部障害者地域生活支援センターにしじん

- 〒602-1826 京都市上京区西堀川通元誓願寺上ル堅門前町四一四
- TEL 〇七五 四五二一三三〇
- FAX 〇七五 四五二一三三〇
- 西陣産業会館1F
- TEL 〇七五 四五二一三三〇
- FAX 〇七五 四五二一三三〇

### 京都市北部障害者地域生活支援センターきらりリンク

- 〒606-1846 京都市左京区浄土寺上馬場町一七一
- フアリースト白川通一階中
- TEL 〇七五 七五二一〇〇六
- FAX 〇七五 七五二一〇〇七

### 西陣会ホームとなり

- シヨートステイ ゆう
- 〒602-1846 京都市上京区元誓願寺通り千本東入る元四丁目四二四番地一
- TEL 〇七五 四五二一三三〇
- FAX 〇七五 四五二一五七〇〇